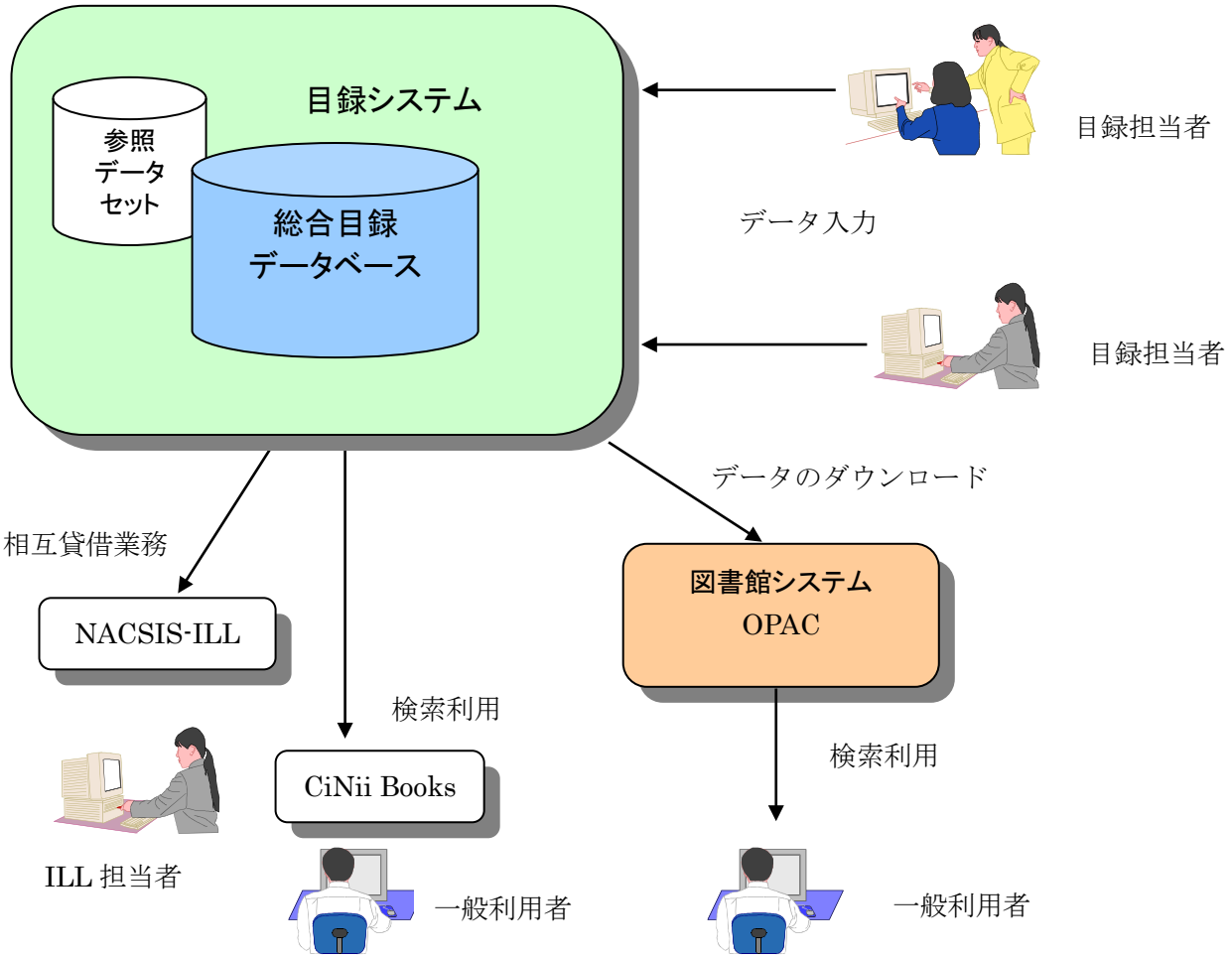
目録システム(NACSIS-CAT)

1.概要

目録システム（NACSIS-CAT：CATaloging system）は，研究者の研究活動を支援するため，全国の大学図書館等にどのような学術文献（図書・雑誌）が所蔵されているかが即座に分かる総合目録データベースを構築するためのシステムです。

この目録システムでは，参加図書館によるオンライン共同分担入力により，従来のような各図書館毎の目録作成の重複を防ぎ，目録業務の負担を軽減しています。また，データベースを効率的に形成するために，各種の標準的な目録データ（MARC：MAchine Readable Cataloging）を参照・利用することができます。

このオンライン目録システムでの迅速なデータ登録により，最新の目録所在情報を提供することが可能となっています。



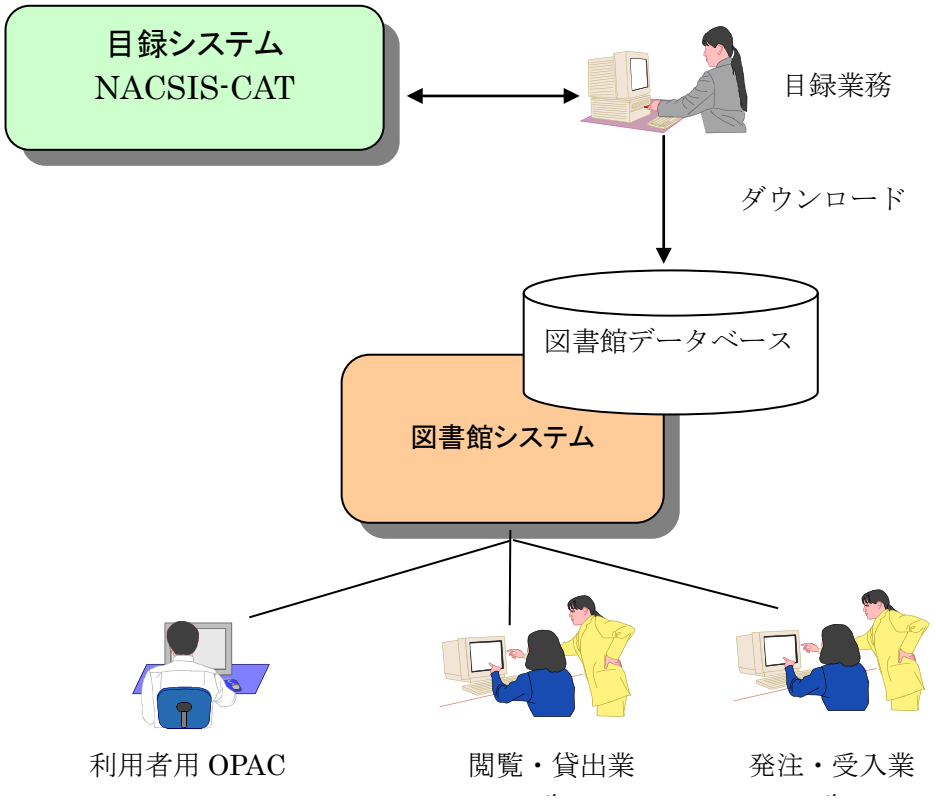
目録システムの概要

この総合目録データベースは，ILL システム（図書館間相互貸借システム）のほか，CiiNii Books でも活用され，研究者への目録所在情報の提供に大きな役割を果たしています。

2 図書館業務での利用

目録システムは，基本的には図書館業務のうちの目録業務に役立つものですが，結果として総合目録データベースを形成すると同時に，個々の大学図書館等の蔵書目録データベースを構築することができます。

図書館においては，図書館システムを導入することにより，自館の蔵書目録データベースを用いてOPAC（利用者用オンライン目録）をサービスすることが可能となります。また，目録業務のみならず，図書・雑誌の選書や発注・受入業務，閲覧・貸出等の各種の図書館業務システムでも有効活用することができます。



図書館システムと目録システムの関係

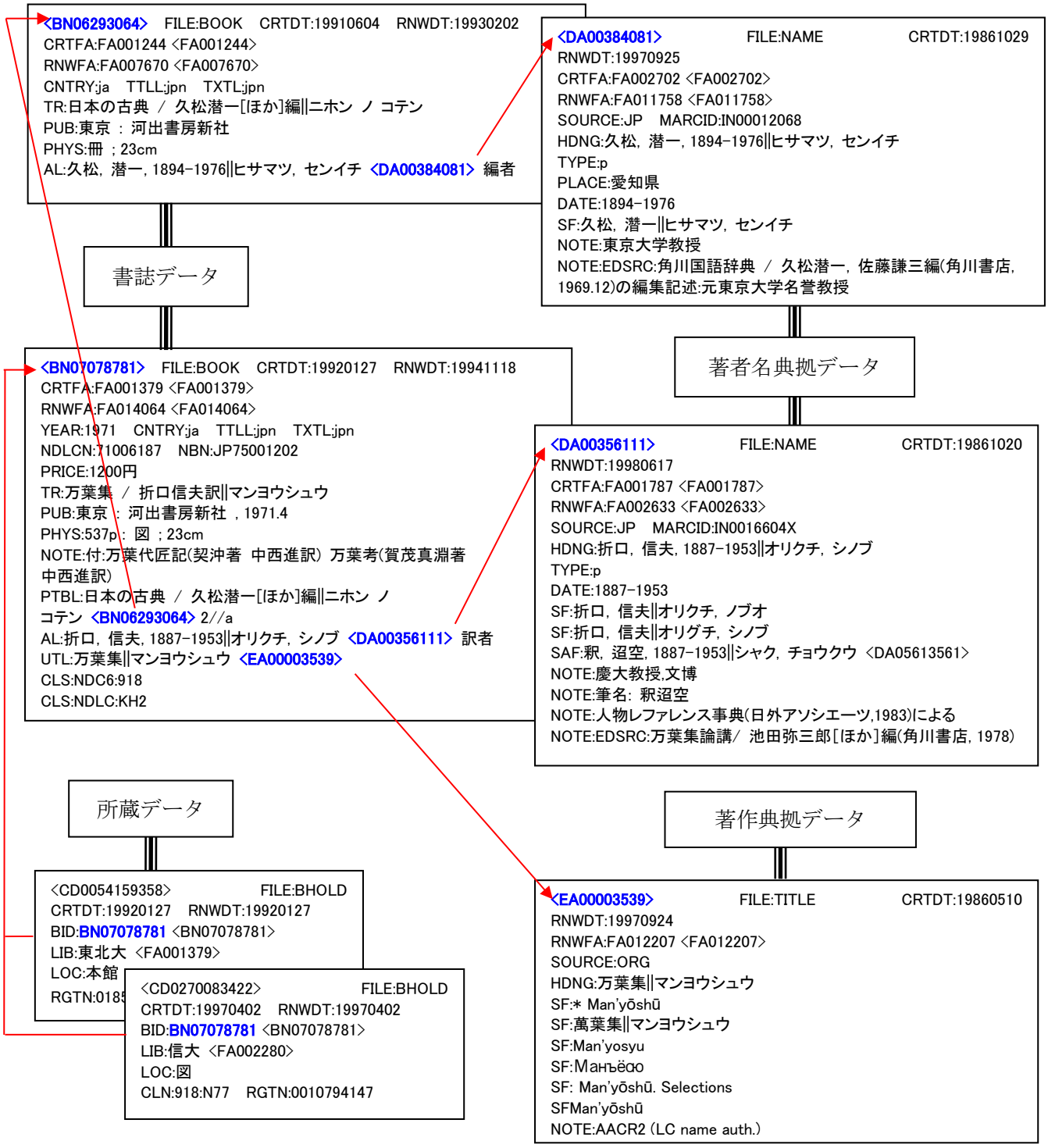
2000 年（平成 12 年）1 月から，多言語対応目録システムの運用を開始しました。多言語対応システムでは，従来のラテン文字，ギリシャ文字，キリル文字，日本漢字に加え，中国漢字，ハングルなど，UCS（国際符号化文字集合）という文字セットで定義されている文字の入力が可能となり，中国語資料や韓国・朝鮮語資料・アラビア語資料を登録することが可能となりました。

3 総合目録データベースのデータ構造

各データの内容と，リンク関係の具体例を次に示します。

総合目録データベースでは，一つの書誌データに対して複数の図書館の所蔵データがリンクしています。各図書館からの目録登録は，総合目録データベースに該当書誌データがないかどうか探し，あれば所蔵データを作成して，リンクづけするという作業になります。

その書誌がシリーズ名を持つ場合は，シリーズ名の書誌データとリンクしています。また，それぞれの書誌データは，著者名典拠データとリンクしています。

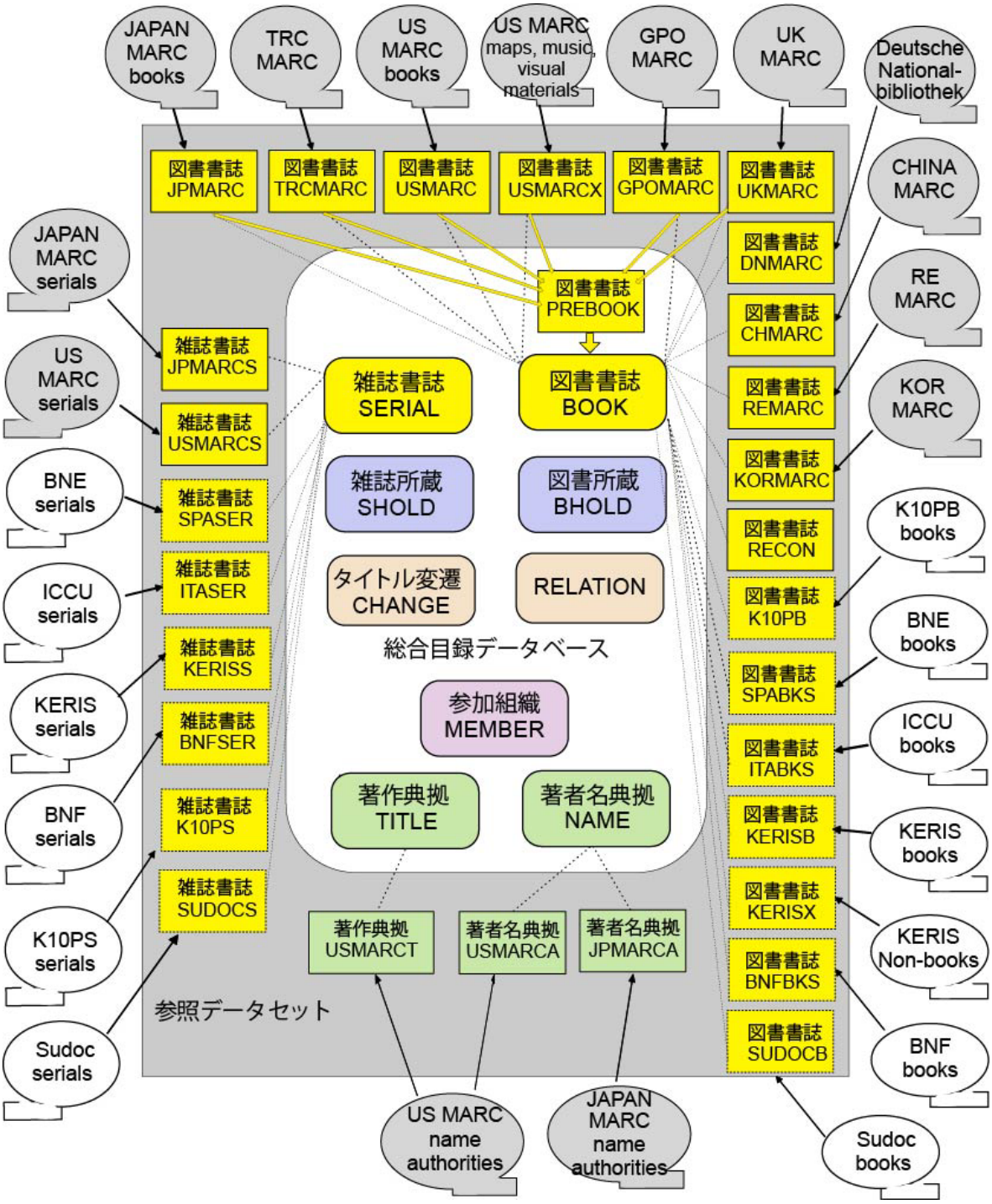


総合目録データベースのデータ構造

4 目録システムのデータセット構成

下図の中心にある総合目録データベースは，大きく図書と雑誌に分かれ，それぞれ書誌データセットと所蔵データセットが中心となっています。さらに，典拠コントロールを行うための著者名典拠及び統一書名典拠データセットがあり，これらのデータセットのまとまり全体で総合目録データベースを形成しています。

総合目録データベースの外周には参照データセットがあります。目録システムは，この参照データセットを利用しつつ，総合目録データベースへ目録所在データを蓄積してゆく仕組みになっています。



目録システムのデータベース構成図